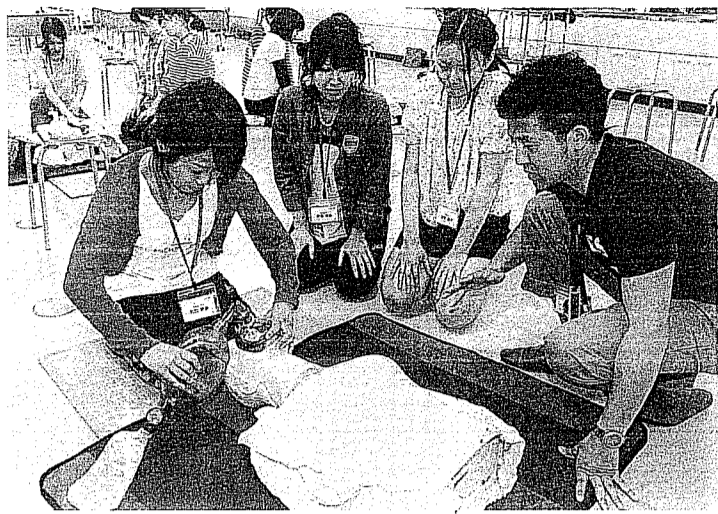


赤穂民報

'14.6.14



▼：看護師の卵たち、救命トレーニング
心臓停止状態の傷病者に対する一次救命処置の実践的手法を学ぶ

このコースはアメリカ心臓協会(AHA)が開発。同国では医師、看護師などの医療従事者に2年に一度の受講を義務付けており、世界最高水準のプログラムと言われている。日本国内の大学で行われることは珍しく、同大学が卒業前技術教育の一環で開講した。受講生3人に1人の

教育訓練「AHA BLSヘルスケアプロバイダコース」が新田の関西福祉大学(安井秀作学長)で7日にあり、医療職を志す看護学部4回生18人が受講した。

インストラクターがつき、心臓マッサージと人工呼吸の技術をマネキン人形でトレーニング。バッグバルブマスクと呼ばれる器具で肺に空気を送り込む手法、小児や乳児に対する心肺蘇生法などを約4時間にわたって繰り返し練習した。

看護師志望の牛尾瑠莉さん(21)は黒崎町は「器具の使い方を理解できた。緊急時にもあわてず冷静に、正確に対処できるようにになりたい」と抱負。インストラクターを務めた岡山赤十字病院の循環器科医師、齋藤博則さん(49)は「今後も訓練を重ね、プロとしてのスキルを習得してほしい」と話していた。(写真：医療現場で求められる救命処置の手法を学ぶ関西福祉大学の看護学部生)

複写はご遠慮ください。